

アラウンド・ザ・ワールド 2

Around the World

第127回

価値の整合

アラウンド・ザ・ワールドPart2の127回目は、エンハンスト・アニュイティを取り上げる。米国市場においてエンハンスト・アニュイティが果たすべき役割は？（RGA再保険会社提供）

米国では、退職はしばしば「幸運のお守り」を手にするような瞬間だと考えられている。何十年にもわたり働き続けた結果、従業員は働き蜂として歩んできた虹の先に、老後を支える「黄金のつぼ」を手に入れるのだ。しかし、今日、多くの米国人にとって、現実が異なってきた。現代医学のおかげで、米国の平均寿命は以前の世代をはるかに上回るようになった。これは喜ばしいことだが、貯蓄を使い果たしてしまった退職者たちの苦境が相次いでいるのは憂慮すべきことだ。平均寿命のさらなる伸展により、退職者が貯蓄を使い果たすリスクがさらに高まる恐れがある。幸いなことに解決策は存在し、

最近のデータによると、米国国民はその解決策に気が始めているようだ。それは、終身年金による生涯にわたる収入の確保だ。

今年3月に公表されたLIMRAの報告書によると、25年の米国の個人年金販売総額は前年比7%増の4641億ドルとなり、9四半期連続で1000億ドルを超えた。しかし、その成長の多くは資産形成を主眼とした商品によるもので、個人年金保険を活用した貯蓄と、それを用いて退職後の収入を生み出すこととの間には、依然として隔たりがあることを浮き彫りにしている。この分野にはまだ大きな成長の余地が残されており、英国で実証済みのアプローチが今

後の道筋を示している。

再び注目を集める英国の終身年金

英国の事例は参考になる。2015年以前は、退職時に終身年金への転換が義務付けられており、その結果、年間およそ40万件的年金保険契約が締結され、120億ポンドの年金資金が投資されていた。ところが、「年金自由化」改革によ

り、退職時の年金受取方法の選択肢が増え、終身受取の選択率は急激に減少した。この自由化の直後に金利が大幅に上昇したことに加え、一時金受取を選択した人が、生活資金が不要になるはるか前に資金を使い果たしてしまっただけという事例が大きく報じられた。その結果、終身年金による安全で確実な収入が、再び魅

米国におけるエンハンスト・アニュイティ

エンハンスト・アニュイティの機会

一般的に「エンハンスト・アニュイティ」と呼ばれるリスク査定型年金は、2024年および25年において、英国における個人年金販売総額の約

力的に見え始めた。2023年、個人年金保険市場は前年比46%増となり、年金自由化以降で過去最高の52億ポンドを記録した。その後、24年には70億ポンド、25年には74億ポンドへと拡大した。同様に重要なのは、25年の平均投資額が初めて8万ポンドを超えたことだ。この復活の根底にあるのは、英国では定番だが米国では依然としてニッチな存在である「エンハンスト・アニュイティ」だ。

▽確定給付型年金から確定拠出型年金への移行により、多大なリスクが退職者に移転
▽社会保障制度の持続性に対する懸念
こうした背景で、エンハンスト・アニュイティが米国で有力な選択肢となる理由として、以下の三つの利点が挙げられる。

①条件体に対する公平性
従来の年金価格設定では、年金受給者が比較的健康な集団という前提で、その結果、慢性疾患を抱える退職者は、平均余命が著しく短いにもかかわらず、健康な人と同額の年金給付を受け取っている。これは事実上、慢性疾患を抱える退職者がより健康な退職者の年金を支えていることになる。エンハンスト・アニュイティはリスク査定に基づいてプライシングを可能にする。

▽ベビーブーム世代が退職期を迎えていること

し、平均余命が短い退職者ほど年金給付額が高くなるよう設定される。この市場が確立された英国等では、多くの場合、年金給付額が20%〜50%ほど高まる。

②介護問題に対する民間保険の解決策
米国は、人口の高齢化に伴い介護のニーズは急増の一途をたどっている。一方で、介護保険の売上は急激に低下している。介護保険は加入時のハードルが極めて高い。申込者が健康なうちに加入しなければならないが、その時期にはまだ将来的な介護の必要性について考えることがあまりないからだ。

米国における課題

告知インセンティブは、この課題に対して最後のチャンスを提供する。この商品は、申込者の健康状態が悪化し始めた後でも購入ができて、既往症を正確に告知するにインセンティブが与えられている。実際に介護保障が必要となった際に、エンハンスト・アニュイティは即時ニーズに対応する年金として、介護施設や介護支援付き住宅の費用を賄った。高額の定額給付を保証する仕組みとして機能する。また、介護状態から回復して長生きした場合の長寿リスクに対応する保障も組み込まれている。

③逆選択への対策

RGAが最近実施した行動科学に関する調査によると、早期死亡の場合に損をすることを考えて、退職者の多数が終身年金を選ばないことが明らかにになった。エンハンスト・アニュイティを導入することで、終身年金を割に合わないと考えていた幅広い退職者層を引き付けることができるようになる。

告知にインセンティブが与えられることで、エンハンスト・アニュイティは保険会社がリスクをより正確に評価できるようになり、透明性の向上を促す。

まとめ：イノベーターの必要性

たとえ理想的な環境にいたとしても、キャリアという虹の果てに一度きりの「黄金のつぼ」が待っているだけでは、多くの退職者にとってリスクを伴う可能性がある。そして、米国におけるこれらの退職者の環境は、理想とは程遠いものだ。生涯にわたる収入が保証されるこそが、「本当の幸運のお守り」になるかもしれない。今こそ、米国の保険会社はイノベーションを起こし、英国のモデルを参考にエンハンスト・アニュイティ市場を拡大すべきだ。こうした商品に関する豊富な経験と豊富な引受査定の実績、そしてそれらを補完する行動科学の知見を備え、イノベーションに伴うリスクを競争優位へと転換するパートナーを見つけることが成功のカギになるだろう。

ポライト氏



ポライト氏



小田原氏

執筆者

RGAリインシュアランスカンパニー米国個人市場部門
シニア・ヴァイス・プレジデント兼ヘッド・オブ・クライアント・ソリューションズ

キース・ポライト

RGAリインシュアランスカンパニー日本支部 通訳

山本あゆみ

日本語訳

RGAリインシュアランスカンパニー日本支部
アソシエイト・ディレクター ビジネス・ディベロップメント部

日本語監修

小田原 敬

RGAが最近実施した行動科学に関する調査によると、早期死亡の場合に損をすることを考えて、退職者の多数が終身年金を選ばないことが明らかにになった。エンハンスト・アニュイティを導入することで、終身年金を割に合わないと考えていた幅広い退職者層を引き付けることができるようになる。

RGAが最近実施した行動科学調査によると、50歳以上の英国在住者は、架空ではあるが現実味のある個人年金商品に関する理解度テストにおいて、平均してわずか半数の質問にしか正解できなかった。これには、健康状態が「非常に良い」と告知した人と「問題がある」と告知した人のどちらがより高い年金給付額を受け取れるかという質問も含まれている。

【キース・ポライト氏のプロフィール】ミズーリ大学（会計学専攻）を卒業し、ワシントン大学でMBAも取得。CPA（米国公認会計士）およびCMA（米国公認管理会計士）。2009年RGA入社。